

7月9日(日) 第二礼拝 「ナオミのアリヤを助けたルツ」 ルツ記1章14-19節

これは、BC1300年頃、士師記の時代の話です。ユダの地に酷い飢饉があったため、そこに住んでいたエリメレクとナオミと二人の息子は、モアブに移住しました。しかし、モアブの地でエリメレクが死に、10年後二人の息子達も死んで、ナオミと嫁のルツとオルパの3人だけが残りました。その後、ユダの地に食べ物があると聞いて、ナオミはユダに帰ろうとします。そこで、ナオミは二人の嫁達に「ここに残り、新しい出発をしなさい」と言いました。オルパは自分の民とその神のところに帰って行きましたが、ルツは最後までナオミにつきましました。

第一番目、ルツの信仰告白(本文16-17節)についてです。ルツは、ナオミや自分の夫からイスラエルの神を知り、信じました。モアブの地で崇拜されていたのは、子どもを生贄にする悲惨な神々でした。しかし、イスラエルの神様は、動物を生贄として捧げ、人の罪を赦してくださる方であり、神様(イエス様)自らが人の罪を贖うための生贄となってくださる素晴らしい神様だと知り、ルツはイスラエルの神様を信じて、ナオミと共にベツレヘムに帰還(アリヤ)しました。しかし、二人がユダの地に帰った後、生計を立てなければいけませんでした。そこでルツは、ボアズの畑で落ち穂を拾って、ナオミと自分の分の生計を立てたのです。これは愛の献身でした。(ルツ2:6-7)

第二番目、ナオミのアリヤを助けたルツの祝福です。ボアズは、ナオミとルツの一連の出来事を聞き、ルツの働きぶりをじっと見て、ルツ2:12ボアズはルツを祝福しました。神様は報いを与えられるお方です。一番目に買い戻しのある親類は犠牲を払うことを拒みましたが、ボアズはナオミの土地を買い戻し、異邦人のルツを自分の妻として迎え入れました。

第三番目、ルツはボアズと結婚してイエス様の系図に入りました。マタイ1:5-6「…ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、エッサイにダビデ王が生まれました。」イエス様はこのダビデの家系に生まれて来られました。異邦人のルツが、モアブの地で自分の夫と死別し、イスラエルの神様を信じて、ユダヤ人であるナオミと共にアリヤした結果、神様はこのような祝福してくださったのです。イスラエルの神様はイエスキリストです。イエス様が私たちのために十字架で身代わりとなって血を流し、私たちを滅びから救い、買い戻してくださいました。ボアズがルツの花婿となったように、永遠のいのち、永遠のエデン(喜び)であるイエスキリストが私たちの花婿となってくださり、私たちが失った全てのものを買い戻してくださいました。犠牲を払い、ここまでするルツやボアズを選択は、弟嫁オルパや、一番目に買い戻しのある親類から見ると、価値のない、愚かな選択でしょう。しかし、Iコリント1:18「十字架のことは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」イエス様は犠牲を払って私たちを買い戻し、妻にしてくださいました。イエス様の買い戻し、これはイスラエルの神様の祝福です。アーメン!